

■公共図書館での実践事例

もっと身近に障害者サービスを！ マルチメディア DAISY図書を！ —岡山県立図書館の取り組み

岡山県立図書館
司書 村田 博子

はじめに

2019年6月に公布・施行された「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」及び2020年7月に策定された国の基本計画「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」をふまえ、岡山県では、2022年3月に「岡山県視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画」を策定しました。

岡山県立図書館では、こうした法の理念や計画に基づき、障害の有無に関わらず、すべての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられるように、誰にでも利用しやすい形式で本の内容にアクセスできるようにすることを目指して、積極的に障害者サービスを行っています。

岡山県立図書館の障害者サービス

岡山県立図書館は、2004年の新館開館時に対面朗読室を設けてから、本格的な障害者サービスを始めました。それ以降現在まで20年近く経ちますが、以前より行っていた図書の郵送貸し出

しや大活字図書の収集・提供に加えて、対面朗読サービス、録音図書をはじめとする多様なバリアフリー資料の収集・提供、読書支援機器の収集・設置・提供、サピエ図書館を利用したサービス、録音図書再生機器の貸し出しなど、少しずつサービスを広げてきました。

さらに、館内には、バリアフリー資料の展示コーナー「いきいき読書ひろば」をアプローチしやすい1階の中央に設けて、「マルチメディアデイジー体験コーナー」を付設し、障害のある方への理解が深まるような取り組みも続けてきました。



「いきいき読書ひろば」の
「マルチメディアデイジー体験コーナー」

近年は、閲覧室の拡大読書器や対面朗読室の障害者用パソコンを更新するとともに、携帯用録音図書再生機器を追加購入するなど、読書支援機器の充実に努めています。また、障害者手帳を交付する機関で、岡山県立図書館の障害者サービスのチラシを配布してもらうなど、PR活動にも努めています。さらに、特別支援学校には、PR活動に加えて、学校図書館への出張相談にも応じ、支援学校との連携を行っています。

新しいサービスとしては、2022年4月より「有料宅配サービス」を開始し、身体に重度の障害のある方または知的障害の程度が重い方にしか行っていなかった郵送貸し出しを、有料ではありますが誰にでもできるようにしました。また、2023年4月からは、来館のみだった対面朗読サービスを、希望者の方にオンラインで行うことも開始しました（試行）。

読書バリアフリー研究会の開催

2023年6月24日（土）に、伊藤忠記念財団主催・岡山県立図書館共催の「読書バリアフリー研究会～みんなに読む喜びと楽しさを伝えよう」を、岡山県立図書館で開催しました。視覚障害、学習障害（読み書き障害）など、さまざまな立場の人たちへの具体的なサポート方法やICTを活用する読書環境づくりを学ぶ機会として実施しました。



読書バリアフリー研究会

当日は、公共図書館や学校、ボランティア、保護者、関連団体の方など、計59名が参加し、読書が困難な子どもたちに読む楽しさを届けるためにはどうしたらよいかを学び、理解を深めました。

講義では、社会福祉法人日本ライトハウス情報文化センター館長の竹下亘氏、有限会社読書工房代表・専修大学講師の成松一郎氏、島根県安来市立荒島小学校教諭の井上賞子氏、学びプラネット合同会社代表の平林ルミ氏よりお話しいただきました。

サピエ図書館、学校図書館のバリアフリー図書棚、マルチメディアDAISY図書、国立国会図書館の視覚障害者専用データ送信サービス・Chatty Booksオンラインサービス等の活用事例、学校・家庭でのタブレット端末の活用についてなど、いま話題のテーマを多数取り上げてお話しいただきました。参加者の方からは「新しい情報を得るこ

とができ、大変勉強になりました。」というお声をいただき、満足度が高かったようです。障害者サービスでどのような配慮や工夫が必要なのかを改めて考えるよい機会になりました。

会場には、バリアフリー資料や読書支援機器等の展示もあり、休憩時間には多くの方が展示を見ていました。また、岡山県立図書館の閲覧室内でも、研究会に合わせて読書バリアフリーの展示を行い、気運を盛り上げました。

「マルチメディアデイジー体験会」の開催

岡山県立図書館は、新型コロナウイルス感染症の蔓延以前は、岡山県総合教育センターという県の機関で、教員向け研修の合間に「マルチメディアデイジー体験会」を行っていました。

新型コロナウイルスが流行してからは体験会を休止していましたが、2023年度に再開するにあたり、会場を岡山県立図書館に移し、参加対象を教員だけではなく図書館職員や一般利用者にも広げて、誰でも参加できる体験会を企画しました。

ただ、一般利用者と図書館職員・教員では体験会の内容を同じにすることはむずかしいので、2回に分けて対象別に体験会を開催しました。



「マルチメディアデイジー体験会」

(1) 体験会を開催する前に

伊藤忠記念財団製作のマルチメディアDAISY図書（わいわい文庫）のVer. BLUEは誰でも利用できるものですが、いままでは来館者の方に館内の体験コーナーで利用してもらったり、学校が体験利用するための協力貸し出しを中心に行っていました。そのため、CD-ROMはカウンター内に配架していました。しかし、誰でも参加できる「マルチメディアデイジー体験会」を行うにあたり、CD-ROMを閲覧室の「いきいき読書ひろば」に展示し、一般の利用者の方が気軽に手に取って見ることができるようになりました。

それに伴い、「わいわい文庫」のVer. BLUEについては、いままで現物をそのまま利用・提供していましたが、CD-ROMに傷が入っても困らないようにコピーを作成して提供するようにしました。

(2) 「マルチメディアデイジー体験会」 (図書館職員・教員向け)

12月3日～9日の「障害者週間」にあわせ、2023年12月1日(金)に行いました。13名の図書館職員・学校関係者等の方が参加され、一人1台ずつの端末で体験をされました。マルチメディアDAISY図書の入手方法やパソコンやタブレット端末等での使用について説明しましたが、非常に熱心に聞いていただくことができました。

会場にはバリアフリー資料や読書支援機器等を展示していたので、熱心に写真を撮り、自館サービスの参考にされていました。また、参加者同士が展示を見ながら、自館の障害者サービスの現状を話したり相談をするなど、情報交換をする場にもなっていました。



読書支援機器等の展示

(3) 「マルチメディアデイジーおはなし会・体験会」(一般向け)

図書館職員・教員向け体験会の翌日、12月2日(土)に、通常のおはなし会

が始まる前に時間を設けて、「マルチメディアデイジーおはなし会・体験会」と称して行いました。親子連れの方や、前日の図書館職員・教員向け体験会に参加できなかった方など、あわせて7名の方が参加されました。

「マルチメディアデイジーおはなし会」では、「わいわい文庫」のVer.BLUEを使用して、『おにぎり おむすび』(5分)、『ことこと ことこと』(3分)、『ももたろう〔短縮版〕』(8分)を流しました。3歳のお子さんが参加していましたが、お話の中におにぎりやおでんといったおいしそうな食べ物が出てきたので、興味深そうに聞いていました。また、保護者の方も「図書館にはこういう資料があるんだ。」と言われ、関心をもって見られていました。

おはなし会の後は、希望者の方に端末でマルチメディアDAISY図書を体験していただきました。そして、ここでも参加者の方と障害者サービスの情報交換をしました。



マルチメディアDAISY図書の体験

(4) 体験会を終えて—今後の課題

体験会の最中に、県内の市町村図書館や学校図書館から、「障害者サービスを始めたいのですが、何から始めたらよいかわかりません。」という相談を受けました。

障害者サービスには、「読書支援機器をそろえなければならない」「予算が必要」といったイメージが大きいようですが、まずは、大活字図書やLLブックといった一般の方も利用できる図書を毎年少しずつ収集して提供することをおすすめしました。図書がそろわないうちは、岡山県立図書館が協力貸し出しでサポートもしています。

読書支援機器については、予算があれば一度にそろえることが可能ですが、予算がない中で障害者サービスを始めるのであれば、まずは、伊藤忠記念財団のようなマルチメディアDAISY図書を製作している機関に寄贈を申請し、マルチメディアDAISY図書を利用者提供するところから始めることをおすすめしました。マルチメディアDAISY図書の収集・提供を始めれば、館内にはその視聴に必要なパソコンやタブレットなどの機器の必要性が出てきま

す。少しずつサービスの幅を広げながら、予算を獲得して機器をそろえていくのもひとつの方法だと思います。

このような、気軽にお互いの図書館の状況を話し合えて相談できる場にもなる、図書館職員・教員向けの体験会は、今後も続ける必要性を感じました。

一方、一般向けの体験会は、地元の新聞にお知らせを掲載してもらえたものの、実際には参加者が少なかったので、参加するにはまだまだ敷居が高かった部分があるのだと感じました。どうすれば一般の方が参加しやすくなるのかよく検討して、今後はやり方を考えていきたいと思っています。

岡山県立図書館は、今後も「県民に開かれた図書館」をモットーに、県内の市町村図書館や関係機関との連携を強化し、全県的に効果的なサービス展開を目指します。これからも、障害の有無に関係なく、どうすれば県民のみなさまの読書をサポートしていけるのか、「マルチメディアデイジー体験会」などのさまざまな機会を通して、考えていきたいと思っています。